



海めぐりとしての海藻展示

—たばこと塩の博物館の場合—

北山太樹¹・高梨浩樹²

海藻民俗学者 濱田仁博士もかつて本誌で連載された「民俗藻類学の旅」で取り上げたように、古代、海藻は製塩に使われていた。ホンダワラ類に海水を繰り返しかけて天日で乾燥し、濃縮した塩分が付着した状態で燃やして灰にする。この灰を海水に溶かし、その上澄みを製塩土器に入れ火で焚くことによって塩を得るのが「藻塩焼」である（濱田ら 2010）。日本人にとって塩も海藻も古代から海めぐりであった。

東京スカイツリーより徒歩8分の好立地に位置する、たばこと塩の博物館は、昭和53年に日本専売公社（現日本たばこ産業株式会社）によって渋谷区に設立され、平成27年に墨田区で再開館してからは煙草と塩に関するあらゆる資料（約3万点）と情報の収集を続けながら、渋い香りと味のある展示を行っている企業博物館である（図1）。当然、常設展示には「藻塩焼」が取り上げられ、古代人が浜辺で海藻を干す風景のミニチュアによる詳細な解説もある。毎年、塩展示だけで夏休みの子供達を引き寄せてはいるが、今夏（7月20日～8月25日）は塩から1歩踏みだして、同じく海からの恵みである食用海藻を主役に「さぐってみよう！海めぐり」と題した企画展（図2, 3）を開催した。

展示は、入口の発券機（図4）で60種の料理から一つ選ぶと出力される「Dr. ソルト」からの指示書（図5）を受け取ってその食材を探し（図6）、さらにその原料となった海藻などの生物を探し出すという参加体験型となっている。食材となる海藻の名を知った来場者は、ワークシート（図7）を使い、次のコーナー（図3）でその原藻である海藻を見つける。展示された海藻の押し葉標本は、ヒトエグサ、アナアオサ、スジアオノリ、クビレツタ、マコンブ、



図1 たばこと塩の博物館。

ナガコンブ、ワカメ、アカモク、ヒジキ、ホンダワラ、モズク、オキナワモズク、カヤモノリ、ハバノリ、スサビノリ、マルバアマノリ、マクサ、トサカノリ、オゴノリ（展示順）の19種である。そのうちマコンブとナガコンブを除く17点が海藻デザイン研究所の野田三千代氏の手によるもので、来場者に海藻の色と形の美しさ・面白さを強く印象づけた。マコンブは、たばこと塩の博物館関係者が三浦半島の漁協から入手した「三浦昆布」を押し葉にしたうえ樹脂コートして展示した。ナガコンブは北山が釧路で採集して押し葉にして保存していたものを、この企画展のために同館のスタッ



図2 ポスター。白衣の人物がDr. ソルト。



図3 海藻展示。壁面に食用海藻の押し葉が並び、天井には15mのナガコンブが吊られている。



図4 Dr. ソルトの指示書発券機。

図5 指示書。

図6 食材コーナー。43 枚のワークシートを用意。

図7 ワークシート。

フがロール状の片面ラミネートフィルムで挟んだ。アイロンを使い手作業で接着するのに4人がかりで半日を要した。長さ15mに達し、天空を飛ぶ龍のような迫力が得られ(図3)、アンケートの結果からもその長さに驚く来場者が多かったことがうかがえた。

当館は、本来、煙草と塩をテーマにした博物館であるが、塩と海からのめぐみという共通項をもつ海藻を取り上げたことで多くの人に足を運んでもらえた。とくに海藻押し葉に対する来場者の反応が良かったので、当館では今後も海藻を取り上げていく方針である。これを入口として塩の科学と文化の魅力、奥深さを多くの人に知ってもらいたいと考えている。

謝辞

写真(図6, 7)を提供して下さった生物研究社の山岡容子氏にお礼申しあげる。

引用文献

濱田仁・木村光子・村岡大祐 2010. 御蔵神社の藻塩焼神事とアカモク. 藻類 58: 133-137.

(¹ 国立科学博物館・² たばこと塩の博物館)

【たばこと塩の博物館】

所在地：130-0003 東京都墨田区横川1-16-3。開館時間：午前10時～午後6時(入館は午後5時30分)。休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日、振替休日の場合は平常通り開館、翌平日が休館日)、年末年始(12月29日～1月3日)。入館料：大人・大学生100円、満65歳以上、小・中・高校生50円。団体(20人以上)の場合は、大人・大学生50円、満65歳以上、小・中・高校生20円。障がい者とその付き添いの方1名まで無料。交通：東武スカイツリーラインとうきょうスカイツリー駅より徒歩8分。都営浅草線本所吾妻橋駅より徒歩10分。東京メトロ半蔵門線押上駅より徒歩12分。Tel：03-3622-8801(代表)。Fax：03-3622-8807。E-mail：takanas@tsmuseum.jp(高梨)。URL：https://www.jti.co.jp/Culture/museum/index.html。

群馬県立自然史博物館企画展

「海の森～海藻たちのワンダーランド～」

2019年10月5日(土)～12月1日(日)

豊かな森を擁する群馬県で、海の森をテーマにした企画展が開催されています。海の森と山の森の密接な繋がりを語る盛り沢山な体験型展示、暮らしのなかに隠れた海藻紹介、自然が生み出す美を追求する野田三千代海藻アート(海藻おしば講座の参加者が制作した作品も紹介)は必見です。(北山)

【群馬県立自然史博物館】

開館時間：午前9時30分～午後5時

休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)

観覧料：一般720円(20名以上の団体570円)、大学・高校生410円(320円)、中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料

所在地：群馬県富岡市上黒岩1674-1

交通：上信電鉄上州七日市駅から徒歩25分

問合せ：Tel 0274-60-1200

URL：http://www.gmnh.pref.gunma.jp/



藻の見遊山